

米軍辺野古弾薬庫建て替え 沖縄

日本政府が新基地建設を進行している沖縄県名護市辺野古の米海兵隊キャンプ・シムワに隣接する辺野古弾薬庫の大規模な建て替え工事をめぐり、在沖米海兵隊作成の文書から、弾薬庫に関する記述が隠蔽されていることが分かった。

弾薬庫の記述が抹消されている文書は、在沖米海兵隊が2019年に作成した「統合自然資源・文化資源管理計画」日本の環境団体が環境省に情報開示させたものを、ジャーナリストの山本眞直氏が入手した。

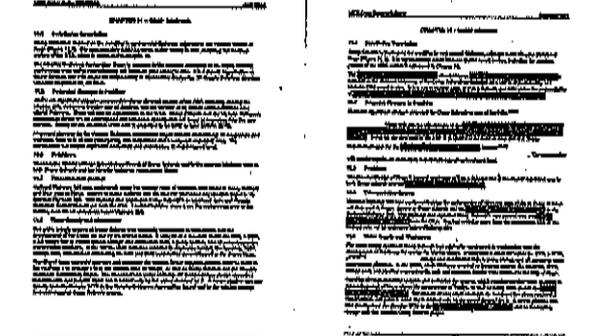
同文書は5年ごとに更新。米国の環境団体が米情報自由法に基づき入手した14年版は、全文公開されています。

14年版では、辺野古弾薬庫に関して、新基地建設（普天間基地の移設）に伴い、「キャンプ・シムワ」と辺野古弾薬庫は再構成され、新たな任務を受け入れるため、広範囲の工事が発

黒塗り資料で隠蔽



海兵隊辺野古弾薬庫で、日本政府が31億円（4棟分）の巨額を投じて進む旧弾薬庫の解体と、最新鋭の弾薬庫への建て替え工事（沖縄ドローンプロジェクト提供、2020年8月18日撮影）



海兵隊が作成した「統合自然資源・文化資源管理計画」の14年版（左）と19年版

生する」と明記。その上で「13の弾薬庫を取り壊し、12の新たな弾薬庫と機器を組み立て区画を含む」としています。

ところが、19年版と14年版を比較すると、「辺野古弾薬庫」の名称を記してあるとみられる6カ所の辺野古弾薬庫の担当部隊名①新基地建設との関連性②弾薬庫はカ所の取り壊しとカ所の新設など工事の詳細③という、少なくとも4点が黒塗り、または削除されています。

また14年版は、米軍から「辺野古弾薬庫の再構成の一環」として解体。約31億円を総括し

て4棟を建設した上、今年5月26日には防衛省沖縄防衛局から5棟の工事入札を公告しています。

辺野古弾薬庫には本土復帰前まで核兵器が配備されていた。本紙が独自に入手した、09年の米議会訪問機関による核態勢見直しに関する意見書には、秋葉剛男駐米公使（現・国家安全保障局長）が沖縄への核貯蔵庫建設を打診され、「そうした提案は断る力がある」と断ったことが明記されており、衝撃を与えました。

緊急時に沖縄に核を再配備するとの日米密約は今も有効です。こうした経緯で辺野古弾薬庫の工事をめぐ

り不安が広がっています。所について在沖米海兵隊に回答は得られていません。本紙は、隠蔽された箇所を質問しましたが、10日まで返答は得られていません。